



平成25年12月26日発行

第 92 号

事務局 〒169-0075

東京都新宿区高田馬2-1-2TOHMA 高田馬場12F

TEL. 03-6457-3921

FAX. 03-3209-3923

E-mail n.s.e.g@d7.dion.ne.jp

<http://www.seishineisei.gr.jp/>

〈目 次〉

第29回大会を終えて……………	1
日本精神衛生学会「学会印象記」……………	2
日本精神衛生学会第29回宮城大会印象記……………	3
日本精神衛生学会第30回北海道大会のご案内……………	4
事務局報告……………	5



第29回大会を終えて

第29回大会長 伊藤ひろ子(宮城大学看護学部)

本大会は、「こころのケアの“核(コア)”の共有をめざして」をメインテーマに、9月21日(土)・22日(日)に宮城大学大和キャンパスで開催しました。三連休の前半で、仙台市では大規模な学会やサザンオールスターズのコンサート等と重なり、宿泊施設の確保が困難な中、161名の参加を得て無事終えることが出来たことを報告し、お力添えを下された方々に感謝いたします。

演題発表の口演(12題)と示説(26題)は、2日間とも朝の早い時間帯(21日は9:30から、22日は9:00から)でしたが、いずれの会場でも熱心な質疑応答が展開されました。また、公募したワークショップに4件の申し込みがあり、いずれの部所にも積極的にご参加いただいて、充実した討議になったのは何よりであったと思います。

「“こころのケア”と精神看護がめざすこと一癒し、そして現実に向き合い生きる力へ」というテーマの大会長講演は、本大会の“はじめに”にあてはまる内容で、引き続きの村瀬嘉代子先生が基調講演について下さいました。その基調講演で村瀬先生は、「繋がりやその展開を支えるもの」というテーマで、さまざまな課題に直面し、身近な人たちと分かり合うことが難しい人たちが、自分自身を受け止められて内的体験の表現を促され、人とのつながりや生活を改善している過程を具体的なかわりを紹介しながら話されました。次に、早川東作理事長企画による日本精神衛生学会の初の試みである3学会(全国メンタルヘルス研究会・日本学校メンタルヘルス学会・日本精神衛生学会)合同のシンポジウムが、「『発達』をめぐる支援者のタテの連携を目指して」というテーマで行われました。臼井吉治氏・中村俊氏・須賀英道氏・杉田義郎氏のシンポジスト4名と、コメンテーターの吉武清實氏・傳田健三氏からは、特に思春期・青年期年代の若者の支援について示唆の多い内容の報告がありました。シンポジストの方々の熱い思いが強く、討議の時間が取れなかったのは残念でありました。

さらに、本大会の締めくくりのシンポジウムでは、「東日本大震災後の“こころの復興”への取り組み」というテーマで、内藤裕子氏・高橋悦子氏・佐藤由理氏の3名が、各々の2年半の被災地と被災者の様子や取り組みについて、臨場感あふれる報告をしました。十分な質疑応答の時間はありませんでしたが、本シンポジウムが終了した時にその場に居た人たちが一つになったようでした。この時期に被災地で開催した学会の意義を実感できたように思います。

全プログラムを終え、さまざまな精神保健上の問題に直面している人たちへの「こころのケアの“核(コア)”について」共有する一歩になったのではと思っています。

次年度の第30回大会(於:札幌)の成功を祈念し、第29回大会を終えてのご挨拶と致します。



日本精神衛生学会「学会印象記」

後上亜友美（医療法人東北会 東北会病院）

2013年9月21日～9月22日に宮城大学で開催された日本精神衛生学会に参加させていただきました。このような印象記を書くのは初めてですが、学会に参加した印象を書かせていただきます。

今回の大会テーマは「こころのケアの“核”の共有をめざして」ということで、精神科で働いている私にとって日々の仕事に直結すると感じ、参加することを決めました。精神科では治療を受けている患者や精神的な悩みを抱えて日常生活が滞っている人たちを対象としており、今回の学会のテーマにもある「こころのケア」をしています。私は、日々の患者との関わりのなかで、今自分はどうな看護を行っているのか、あるいは何が求められているのかなど、精神看護を振り返ってこころのケアの核を考えさせられるような、私に向けて発信された強いメッセージにも感じました。

開催会場となった宮城大学は私が看護を学んだ場所であり、在学中には大会長の伊藤ひろ子先生の講義も受けていて、個人的に懐かしい場所でした。

会場に入って受付を済ませると、最初に目に飛び込んできたのはたくさんのポスターセッション。児童から青年期の発達障害やひきこもり等の現代社会の問題など、興味深い内容ばかりでした。しかし、ポスターとポスターとの間が狭く、発表者と閲覧者が多数混在して行き来するため落ち着いて質問することができなかったことや、口演発表とワークショップと時間が重なるためにゆっくりと閲覧できなかったことが残念でした。

学会一日目に行われた大会長講演と基調講演では、発表題名こそ違うものの、伝えたい内容は共通していたように感じます。私は二つの講演を通して、人との関わりを継続することで変化が生まれ回復していくことを学びました。回復の可能性を信じること、その可能性は無限であり芽をつままないように潜在した可能性に気づくことの大切さも教えられました。特に印象的なのが、大会長・伊藤ひろ子先生の講演での「人の心を溶かすには、人の関わりが大切である。これはどんなに医療が発達しても変わらない。」という言葉です。私も臨床現場で患者と関わり続けることで、患者との関係が変化していったことが多くあります。例えば、話しかけても「大丈夫です」と言って立ち去ってしまったり、話をしてもなかなか目を合わせてくれない患者に声をかけ続けていたら、ある日「ちょっと相談したいことがあるんだけど、ゆっくり話したいんだ。今度夜勤いつ？時間とってもらえないかな？」と話しかけられたことがありました。これは患者に関わり続けた結果だろうし、患者自身が私への警戒心を解いて話しかけるという行動に変化していったのだと思います。私はこのエピソードを通して、患者へ関わることへの大切さを実感し、現在も関心を向け続けているというメッセージを送っています。患者が自ら「この人となら安心して話ができる」「この人といるとホッとできる」という感覚を持てるように、そんな存在の看護師になるために大切なことを再確認する講演でした。

学会二日目に行われたシンポジウムでは「東日本大震災後の“こころの復興”への取り組み」をテーマとして、スクールカウンセラーや保健師、子どもたちへあそび場を提供する団体理事、それぞれの立場から見た被災地や復興へ向けた取り組みの話聞くことができました。子どもたちの姿をみて大人たちがパワーをもらっていること、支援に携わっている大人たちも疲弊しているため労いの言葉をかけたり感情を吐き出す場所が必要であること、私達の先輩である“じじばば力”を今こそ発揮すべきであること、こころとからだを支えるには暮らしや生活に視点をあてた社会地域づくりが求められることなど、被災者や被災地支援に携わっているからこそのお話を聞くことができました。これらは被災者に実際に関わったからこそ気づけたことであり、更なる支援につながっているのだと感じました。発表予定時間を延長するぐらい活発な質疑応答も出され充実した時間になりました。

この学会に参加して、私自身「また仕事を頑張ろう」と思えるような活力をもらいました。それは、久しぶりに伊藤先生の講義を受けたことや大学の先生と会ってお話できたこと、参加者の方とお話できたことが楽しく充実した時間だったからだと思います。また、患者との関係性を築くために日常生活の些細で細やかな声かけを行い、普段から関心を向けていき患者を理解していくという

自分が行っている看護が有効であることを再確認できたことも大きいです。今後も患者へ関わり続けることの大切さを忘れずに、患者が安心し、患者らしくありのままに過ごすことができるように支援し続けていきたいと強く感じます。

最後に、本学会でたくさんの情報提供をしていただきました諸先生方に心から感謝いたします。

日本精神衛生学会第29回宮城大会印象記

傳田健三（北海道大学大学院保健科学研究院）

日本精神衛生学会第29回宮城大会は、平成25年9月21日（土）～22日（日）の2日間、伊藤ひろ子先生を大会長として宮城大学（宮城県黒川郡大和町）において開催されました。会場の宮城大学は豊かな自然の中に忽然と出現した近代的な建物でした。周囲には遊ぶところがなく、幸いにも学会に没頭することができました。

大会メインテーマは「こころのケアの“核（コア）”の共有をめざして」であり、「こころのケア」に携わっている人たちと、悩んでいる人・困っている人が活用できる支援者のあり方を、様々な教育背景をもつ人たちとの体験交流を通して共有することが目的とされました。

大会長講演は、「こころのケア」と精神科看護がめざすこと一癒し、そして現実に向き合い生きる力へ」であり、基調講演は、村瀬嘉代子先生（北翔大学大学院教授）による「繋がり、その展開を支えるもの」でありました。伊藤大会長は、「私の精神科看護師としての出発は、重度の知的障害があつて言葉を話せない子どもたちとの関わりでした。その頃から村瀬先生の考え方を支えに仕事をしてきました。村瀬先生は、目の前にいる方が自分を受けとめてくれたと思えるような安心感を届ける出会いを大切にしておられます。私は心を病む青年たちとの関わりを紹介しながら、精神看護が担えることについて、皆さんと共有したいと思います」と述べられました。

学会は、大会長講演、基調講演のほか、一般発表12題、ポスター発表26題であり、ワークショップが4つ、シンポジウムが2つという構成でした。

第1日目のシンポジウムは、理事長企画の関連3学会（日本学校メンタルヘルス学会、全国大学メンタルヘルス研究会、日本精神衛生学会）合同シンポジウムが行われ、『発達』をめぐる支援者のタテの連携を目指して」と題し、子どもから大人までのこころの発達をめぐる支援についての実践、研究の第一人者がシンポジストとして登壇しました。ディスカッションの時間がとれなかったのは残念でしたが、白熱した講演が続きました。私もコメンテーターとしてお話しさせていただきましたが、子どもの心のケアするための「タテ」の関係の連携の必要性が痛感されました。

第2日目のシンポジウムは、「東日本大震災の“こころの復興”への取り組み」と題し、被災地で継続的な活動を展開しているスクールカウンセラー、ボランティア、保健師らをシンポジストに、それぞれの実践報告を受けて課題について語り合われました。

宮城大会を振り返ってまず感じたことは、主催者でもあり、被災地でもあった宮城大学のスタッフの方々への心温まる「おもてなし」の気持ちのすばらしさでした。また、大会に参加された方々の熱い議論も印象的でした。とても良い学会であったと感じた次第です。

さて来年は、第30回北海道大会を平成26年11月1日（土）～2日（日）の2日間、北海道家庭生活総合カウンセリングセンターが主催させていただきます。メインテーマは、「若者の現在（いま）、そしてこれから」とし、若者の現状をどう理解し、今後どのように関わっていくべきかを皆さんとともに考えていきたいと思っております。多くの方々の参加をお待ちしております。何卒よろしく願い申し上げます。

日本精神衛生学会第30回北海道大会のご案内



1. 大会テーマ：「若者の^{いま}現在、そしてこれから」
2. 日程：2014年11月1日（土）～2日（日）
3. 会場：道民活動センタービル かでの2・7（札幌市中央区北2条西7丁目）
4. プログラム概要

11月1日（土）

9:00	受付	
10:00	口頭・ポスター発表	
11:00	大会長挨拶（傳田健三） 大会長講演：「若者のうつと自殺—その現状と対策」	かでのホール
12:00	昼休み（理事会）	
13:00	口頭・ポスター発表	
14:30	特別講演 大野 裕先生：「認知行動療法の実際」	かでのホール
15:30	シンポジウム テーマ：「自殺予防」 ～18:00まで	かでのホール
18:30	懇親会	

11月2日（日）

9:00	シンポジウム テーマ：「悲しみからの立ち直り」	かでのホール
11:00	総会（土居健郎記念賞贈呈）	かでのホール
12:00	昼休み・ポスター発表	
13:00	創立30周年記念市民公開講演会 香山リカ先生：「若者のホンネ」 田中康雄先生：「ぼくらの中の発達障害」 公開パネルディスカッション テーマ：「若者の ^{いま} 現在、そしてこれから」 （香山リカ先生、田中康雄先生、傳田大会長、阿部実行委員長）	かでのホール
16:15	閉会式 ～16:30まで	かでのホール

5. 大会参加費

事前申込 会員 5,000 円、非会員 6,000 円

当日申込 会員 6,000 円、非会員 7,000 円

学生（大学院生を含む） 3,000 円（事前申込・当日申込の区別はありません）

※ 事前申込の方法については、後日ホームページに掲載します。

6. 演題募集

演題募集は6月上旬から7月下旬までを予定しております。

7. 問い合わせ・大会事務局

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 道民活動センタービル かでる2・7

北海道家庭生活総合カウンセリングセンター内

日本精神衛生学会第30回北海道大会事務局

TEL: 011-251-6408 FAX: 011-271-5068

E-mail: seishin_eisei30@yahoo.co.jp

URL: <http://Jamh30.conv-s.com>

※ お問い合わせは、できるだけE-mail をお願いいたします。

日本精神衛生学会 事務局報告

2013年12月19日現在

1) 会員現況

2013. 12. 19 現在会員数	正会員	668名	
	学生会員	72名	
	機関会員	4機関	
2013. 5. 25 以降の入退会	正会員	入会 22名	退会 17名
	学生会員	入会 9名	退会 1名

2) 会費納入状況

2013年度 2013. 12. 19付

納入機関率 (4機関) 100%

納入者率 $459 \div 740 \times 100 = 62.0\%$

未納者率 $(740 - 459) \div 740 \times 100 = 38.0\%$

*当学会は会員の皆様の会費で運営しております。ご多忙とは存じますが、会費未納の方はどうかお早めにお支払いいただきますようお願い申し上げます。現状では学会誌の発刊も危ぶまれるほど切迫しておりますので、ご協力ください。